

主よ、わたしを憐れんでください

マタイによる福音書 15 : 21 - 28



司祭 ヨハネ 井田 泉

2023年8月20日

聖霊降臨後第12主日

聖光教会にて

今日の福音書に登場したカナンの女の人は、わたしたちの信仰の先輩です。そしてわたしたちと祈りを共にする人です。どうということかと言うと、この女の人がイエスに向かって叫んだ最初の言葉が、わたしたちの祈りと同じだからです。

**「主よ、ダビデの子よ、わたしを憐れんでください。」**

**マタイ 15:22**

「主よ、憐れんでください」。ギリシア語の原文を見れば、「エレエーソン、キュリエ」。つまり「キリエ・エレイソン」です。この礼拝で先ほど唱えた祈りです。この女の人とはわたしたちと同じ祈りをしている。いや、むしろこの人の祈りが、わたしたちの礼拝の中に入ってきている、と言ったほうがいいかもしれませぬ。

**「主よ、……憐れんでください。娘が悪霊にひどく苦しめられています。」 15:22**

切実な訴えです。その切なる思いが「キリエ・エレイソン」には含まれています。それを知るとき、わたしたちはこれまで以上に深い思いをこめて「キリエ・エレイソン」を祈りたいと思います。

さてこのときのイエスはどのような状況だったのでしょうか。

**「イエスはそこをたち、ティルスとシドンの地方に行かれた。」**

**15:21**

「そこ」というのはガリラヤ地方でしょう。そこを去って「ティルスとシドンの地方」、つまり外国に、地中海沿岸の国にイエスは行かれたのです。同じ話がマルコ福音書に出て来ますが、そこにはこう書かれています。

**「ある家に入り、だれにも知られたくないと思っておられたが、人々に気づかれてしまった。」マルコ 7:24**

きっとイエスはとても疲れていて、だれにも会わずにすむはずの外国に行って休養をとりたかったのだと思います。そこへカナンの女がやってきて訴えました。

**「主よ、……憐れんでください。娘が悪霊にひどく苦しめられています。」**

これに対してイエスは無言です。

**「しかし、イエスは何もお答えにならなかった。」15:23**

イエスはひどく疲れて、無力になっておられたのかもしれませんが。

イエスさまの状態のことは少しに横に置いて、このカナンの女の人とわたしたちを重ねてみましょう。

わたしたちも、「主よ、憐れんでください」と祈ります。ためらわないでそう祈りましょう。わたしたちも痛み、心配、困窮を抱えて、イエスに訴えます。これがカナンの女とわたしたちの第1の共通点です。

そして第2の共通点があります。それは、わたしたちも、祈りに対する応答がなかなか与えられないと感ずることがある、ということだす。

**「しかし、イエスは何もお答えにならなかつた。」**

イエスは沈黙しておられる。これはわたしたちにとって試練の時、つらい忍耐の時だす。けれどもイエスは無視しておられるのではありませぬ。

話の続きだす。イエスは、娘を救ってほしいと訴える彼女にこう言われたといひます。

**「わたしは、イスラエルの家の失われた羊のところにしか遣わされていぬい」** マタイ 15:24

わたしの使命は神の民イスラエルの範囲だけだ、外国人には広げることができぬい、というのです。率直に言つてわたしは、これはイエスさまの自身の言葉ではなくて、後の教会の人がイエスの言葉として書き込んだのではないか、と思ひます。ともかく読み進みましよう。

**「しかし、女は来て、イエスの前にひれ伏し、『主よ、どうかお助けください』と言つた。」** 15:25

すでにこの女の人ひイエスのところに来て訴えているのに、ここでまた「女は来て」と書かれていひます。彼女はさらにイエスに迫つたということだす。

「イエスの前にひれ伏し、『主よ、どうかお助けください』と言った。」

ほんとうに切実な、必死の求めです。

「イエスが、『子供たちのパンを取って小犬にやってはいけない』とお答えになると、女は言った。『主よ、ごもつともです。しかし、小犬も主人の食卓から落ちるパン屑くずはいただくのです。』」 15:26-27

ここでの「子供」とはイスラエル、「子犬」は外国人です。（こういう譬えも、ほんとうにイエスが言われたのか、わたしには疑問なのですが）ここで重要なのはこの女の人の意志と言葉です。どんなことがあっても、どんなに言われても諦めない。

「小犬も主人の食卓から落ちるパン屑はいただくのです。」

パン屑のようなわずかなかけらでもよいから、イエスさまの憐れみがほしい。1滴の憐れみでもよいからほしいのです。

どこまでもこの女の人は引き下がらず、諦めず、イエスの憐れみを求めてやみません。イエスは感動されました。思わずイエスは言われました。

「おお！」 新共同訳には訳されていないのですが、ここには 6 「オー」という感嘆詞が書かれています。「おお、女の人、あなたの信仰は大きい！」。大きい！ すごい！ 英語で言えば great !。

イエスの驚き、感嘆、感動の言葉です。イエスの中に変化が生じます。イエスの中に新しい力が湧いてきます。

「『婦人よ、あなたの信仰は立派だ。あなたの願いどおりになるように。』そのとき、娘の病気はいやされた。」15:28

この女の願いを、イエスは自分の願いとされました。あなたの願いをわたしも願う。この女の人の切なる求めがイエスを動かしました。憐れみがイエスから溢れ出て、この女の人とその娘に流れ込んだのです。

先ほど、この女の人とわたしたちとは重なる、共通すると言いました。第1は「主よ、憐れんでください」と祈り訴えること。第2は、祈ってもなかなか答えてもらえないことがある、ということでした。

ここで第3に、この女の人とわたしたちを重ねたい。この人に倣って、わたしたちもイエスに願うことをやめないようにするのです。どこまでもすがりつく。イエスに「うん」と言っていたくまで、憐れみを求め続ける。少し祈ってすぐ「御心のままに」と言うのではありません。御心にゆだねるというなら、十二分に願って求めて訴えてからです。そうすれば、たとえ結果は求めたとおりにならなくても、わたしたちの訴えはイエスを動かします。主の憐れみが起こって、わたしたちに流れ込むのです。

「主よ、憐れんでください。」

イエスはあのカナンの女の人を憐れみ、またその娘を憐れまれました。その憐れみは溢れ流れて、多くの人を、わたしたちを潤します。

「ヘブライ人への手紙」の中でこのように言われています。

「イエスは、神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司となって、民の罪を償うために、すべての点で兄弟たちと同じようにならねばならなかったのです。」2:17

イエスはわたしたちの訴えを引き受けて、神に願ってくださる。イエスは「神の御前において憐れみ深い、忠実な大祭司」となって、あの女の人以上に、わたしたちのために神の憐れみを求めてくださるのです。

そしてもう一つ、今日の物語から気づかされることがあります。わたしたちの知る中に、大きな困難を抱えている人がいないでしょうか。あのカナンの女の人が娘のために憐れみを求めたように、わたしたちもそのだれかのためにイエスの憐れみを祈り求めましょう。イエスがわたしたちのための大祭司であるとすれば、わたしたちは言わば小さな祭司となって、その人のために主の憐れみを求めるのです。「主よ、憐れんでください。」

こうして主の憐れみは、わたしたちをとおして広がっていきます。

祈ります。

主イエスさま、あのサマリアの女の人のように、諦めずにあなたの憐れみを求めて祈る者にしてください。今、あなたはわたしたちのための大祭司となってわたしたちのために神に祈ってくださることを信じます。わたしたちも人のために主の憐れみを祈る者とならせてください。アーメン